

平成26年6月18日
消費者庁
独立行政法人国民生活センター

乳幼児（特に1歳以下）のボタン電池の誤飲に注意！

－重症化することを知らない保護者が6割も！！－

消費者庁には、子どものボタン電池^{※1}の誤飲に関する事故情報が、平成22年4月から平成26年3月末までの間に90件以上寄せられており、そのうち11件は入院することとなった事例です。ボタン電池は、誤飲時に食道にとどまり、放電の影響によって短時間（僅か1時間）^{※2}でも潰瘍ができて穴が開いてしまうなどの重篤な症状を生じることがあり、場合によっては死に至るなど大変危険です。

消費者庁では、乳幼児の保護者約3,200人を対象としてボタン電池の誤飲に関するアンケート調査を実施しました。その結果をみると、ボタン電池の誤飲のおそれ及び重症事例の存在を知らない人が約6割でした。

ボタン電池は、玩具だけでなく、時計、タイマー、LEDライトなど子どもが簡単に手にできる様々な日用品に使われていて、こうした製品で子どもが遊んでいたことによる事故が多数発生しています。ボタン電池の危険性を認識し、保管・廃棄方法に気を付けるとともに、ボタン電池が使われている製品の点検も行いましょう。

備考：本件公表は、経済協力開発機構（OECD）と16の国と国際機関が連携して取り組む「ボタン電池の安全性に関する国際啓発週間（2014年6月16日～20日）」の一環として実施するものです。海外ではボタン電池に関する30件以上の死亡事故が報告されており、国際社会全体でボタン電池への関心を高める必要があります。（別紙参照）

※1 ボタン電池：JIS規格（JIS C8500）で規定されたもののうち、総高が直径未満の小型円形電池。

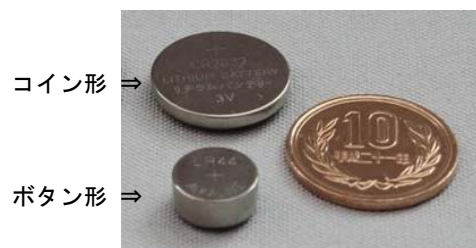
※2 大浜和憲「誤飲したボタン電池はすぐに取り出すべきですか」小児内科 Vol.43 増刊号2011, 888-890 ページ

1. ボタン電池の危険性

（1）ボタン電池の種類

ボタン電池と呼ばれる電池には、形状によりコイン形とボタン形があります。コイン形の多くは、ボタン形に比べると厚さが薄く、直径が2cm前後と大きく、硬貨によく似た形状をしています。

写真1 ボタン電池の形状（例）



また、電池の中でもリチウム電池は、放電電圧が高く（3V）、電池を使い切るまで一定の電圧を保持する特性があります。

いずれも子ども用の玩具だけでなく、時計やタイマー、LEDライト、体温計、家電製品のリモコン、電卓など日常生活で子どもが簡単に手にできる様々な製品に幅広く使われています。

（2）誤飲事故の症状

電池を飲み込んだ際に、消化管に接触した電池から電流が流れると、電気分解により電池の外側にアルカリ性の液体が作られ、短時間で消化管の壁に損傷が起こります。そのため早く取り出さないと、消化管に潰瘍ができたり穴が開くなどのおそれがあります。特に、コイン形のリチウム電池は、平たく幅が広く、食道等に停滞しやすいだけでなく、電池を使い切るまで他の電池より高い電圧をそのまま保持する特性があるため、誤飲した時の危険性はより高くなります。

また、胃内では、胃液で電池の金属皮膜の腐食が起こります。電池の中身（電解液）自体にアルカリ性液を使っているアルカリマンガン電池などでは、アルカリ性の液体が流出して消化管の壁を損傷するおそれも指摘されています。

写真2と写真3は、コイン形のリチウム電池が食道内に停滞して化学熱傷^{※3}を起こした事例として小児外科誌で報告^{※4}されたレントゲン写真と内視鏡写真です。1歳前後の子どもがコイン形のリチウム電池を誤飲すると、食道にとどまることが多いと考えられます。

※3 化学熱傷とは、化学物質による皮膚・粘膜の損傷です。化学物質そのものによる細胞の障害や、二次的に生じる発熱作用などによって局所の炎症や組織壊死が引き起こされます。

※4 大浜和憲他「小児期コイン型リチウム電池誤飲」小児外科 Vol.40 No.11 2008-11, 1252-1256 ページ

写真2 1歳女児のレントゲン写真

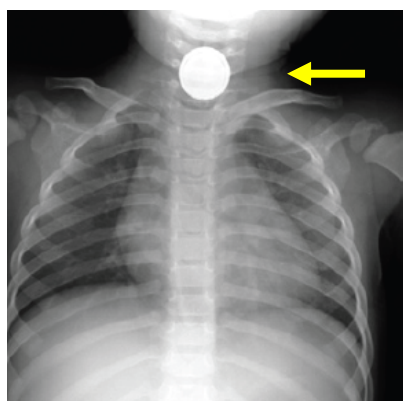
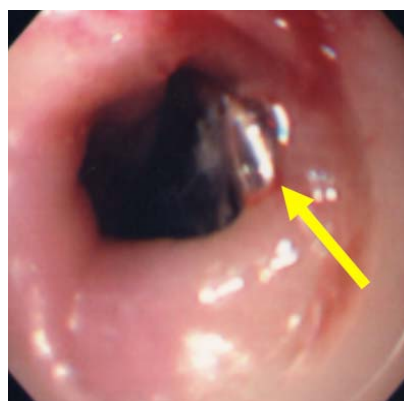


写真3 1歳男児の内視鏡写真



2. 誤飲事故について

(1) 消費者庁に寄せられた事故情報

医療機関ネットワーク^{※5}には、子どもがボタン電池を誤飲したという報告が平成22年12月から平成26年3月31日時点までの間に51件、誤飲の疑いの報告も含めると93件寄せられました。年齢別では、3歳以下が91件（約98%）と大半を占めており、中でも1歳児の誤飲が54件（約58%）と最も多くなっています。被害程度の内訳は、中等症^{※6}が10件（誤飲したと確定できる51件の約2割）、軽症^{※6}が83件となっています。事故直前にボタン電池が使用された（又は使用されたと思われる）製品等は、図2のとおりです。

また、事故情報データベース^{※7}には、子どものボタン電池の誤飲に関する危害情報が平成22年度以降4件登録されています（平成26年3月31日までの登録分）。危害の程度の内訳は、治療期間が1か月以上が1件、1週間未満が1件、不明が2件です。

※5 「医療機関ネットワーク事業」は、参画する医療機関（平成26年6月時点で24機関）から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした消費者庁と独立行政法人 国民生活センターとの共同事業（平成22年12月運用開始）

※6 中等症：生命に危険はないが、入院を要する状態、軽症：入院を要さない状態

※7 「事故情報データベース」は、消費者庁が独立行政法人国民生活センターと連携し、関係機関より「事故情報」、「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるためのデータ収集・提供システム（平成22年4月運用開始）

図1 ボタン電池誤飲年齢

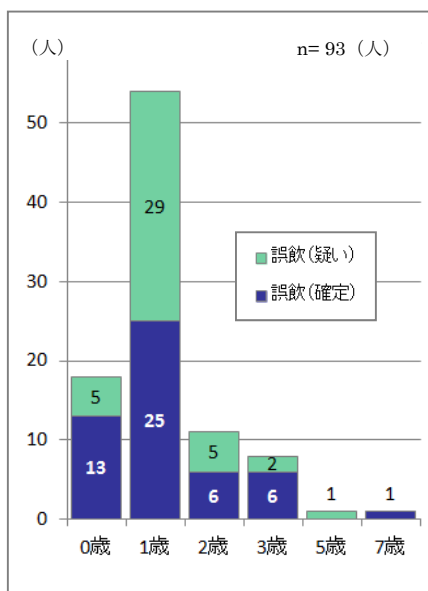
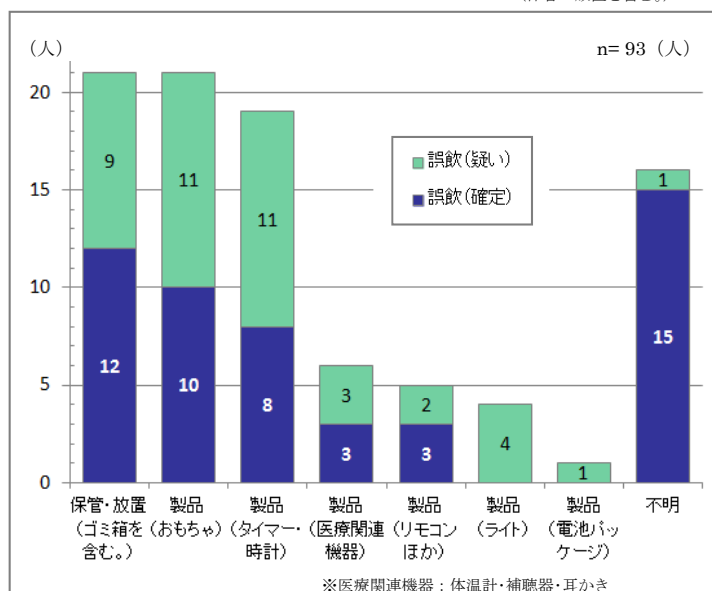


図2 ボタン電池を使用していた製品等



(2) 事故事例

<事例1> タイマーの蓋を取って遊んでいて電池を誤飲しカテーテルで摘出

タイマーの蓋を取って遊んでいるのを母親が発見。中にあるはずのボタン電池が見当たらず受診。腹部レントゲンで胃にボタン電池を確認したため、マグネットカテーテルにて摘出。ボタン電池は黒色に変色していた。

(事故発生年月 平成 25 年 8 月、1 歳・男児・軽症)

<事例2> おもちゃが壊れ、中のボタン電池を誤飲しカテーテルで摘出

おもちゃが壊れ、中のボタン電池を誤飲。最初に受診した病院で腹部に電池があることは確認できたが、マグネットカテーテルがなく、別の病院へ搬送、摘出。

(事故発生年月 平成 25 年 12 月、0 歳・女児・軽症)

<事例3> 電池保管のケースの蓋を開けて誤飲、摘出手術後 ICU 収容

電池を入れておくケースの蓋が開いていた。丸い電池が 1 個見当たらず受診。レントゲンにて電池を確認、摘出手術。手術後 ICU 収容。組織破壊が進んでいたため、食道に穴が開きかねない予断を許さない状態にて、約 1 か月間入院。電池は起電力 3 V の新品のコイン形のリチウム電池。

(事故発生年月 平成 26 年 1 月、2 歳・男児・中等症)

<事例4> LED ライト付き耳かきの電池を誤飲し気管と食道に穴が開いた

引き出しの中に収納している LED ライト付き耳かきが放り出してあり、子どもがコイン形のリチウム電池を誤飲したことがすぐに分かった。病院にて 9 時間かけて取り出したが、放電の影響で気管と食道に穴が開き、2 か月入院した。しばらくは食事が取れず、固形物を受け付けなかった。

(事故発生年月：平成 25 年 8 月・1 歳・男児)

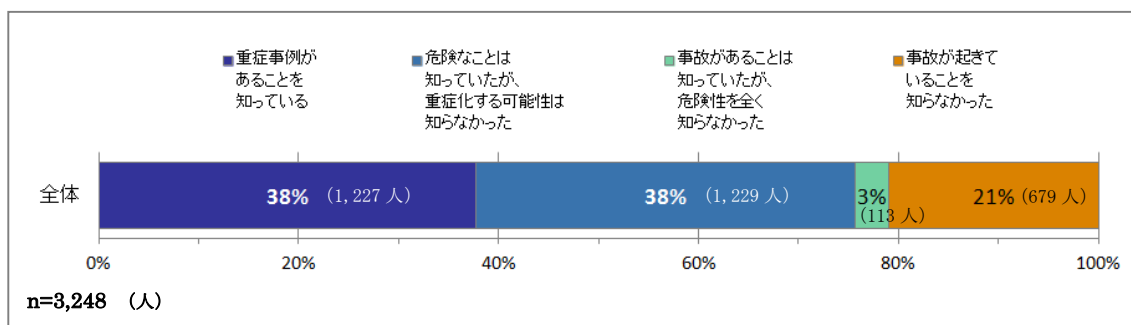
3. 乳幼児によるボタン電池等の誤飲事故に関するアンケート

消費者庁は、0歳から3歳までの乳幼児の保護者3,248人に対し、ボタン電池等を使用する製品に関する認識、乳幼児のボタン電池等の誤飲事故に関する認識について、アンケート調査を実施しました。(アンケートの詳細については別添を参照)

(1) 重症化することを知らない人が約6割！

乳幼児が製品からボタン電池等を取り出し、飲んでしまう事故が起きていることを知っていると感じた人は約8割(2,569人)でした。しかし、ボタン電池等の誤飲による重症事例の存在を知らない人は、全体の約6割(2,021人)でした。

図3 ボタン電池誤飲による重症事例の認識



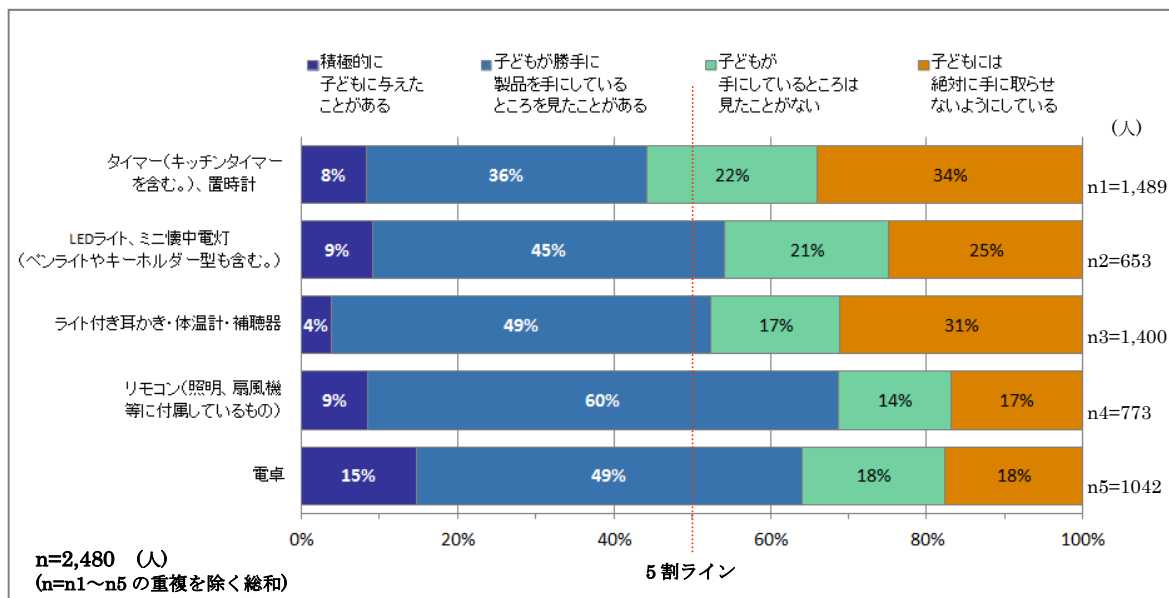
(2) 子どもはボタン電池が入った製品を意外と手にしている！

家庭においてボタン電池等を使用している可能性のある製品で、玩具以外を保有していると答えた人は約8割(2,480人)でした。

玩具以外で保有していると答えがあった製品のうち、LEDライト、ライト付き耳かき・体温計、リモコン、電卓については「積極的に子どもに与えたことがある」又は「子どもが勝手に製品を手に入れているところを見たことがある」と答えた人が、その内の5割以上でした(図4参照)。玩具以外の日用品でも、ボタン電池が入っているものを子どもが手にすることが十分考えられます。

さらに、ボタン電池の誤飲事故が起きていることを知っている人と知らない人で、ボタン電池を使用した製品の取扱状況について比較したところ、大きな違いはないことが分かりました。ボタン電池自体の誤飲の危険性を分かっているにもかかわらず、ボタン電池が使われている製品にも使用状況によっては誤飲の危険性があることが、明確に認識されていないと考えられます。

図4 ボタン電池を使用した製品の取扱状況について

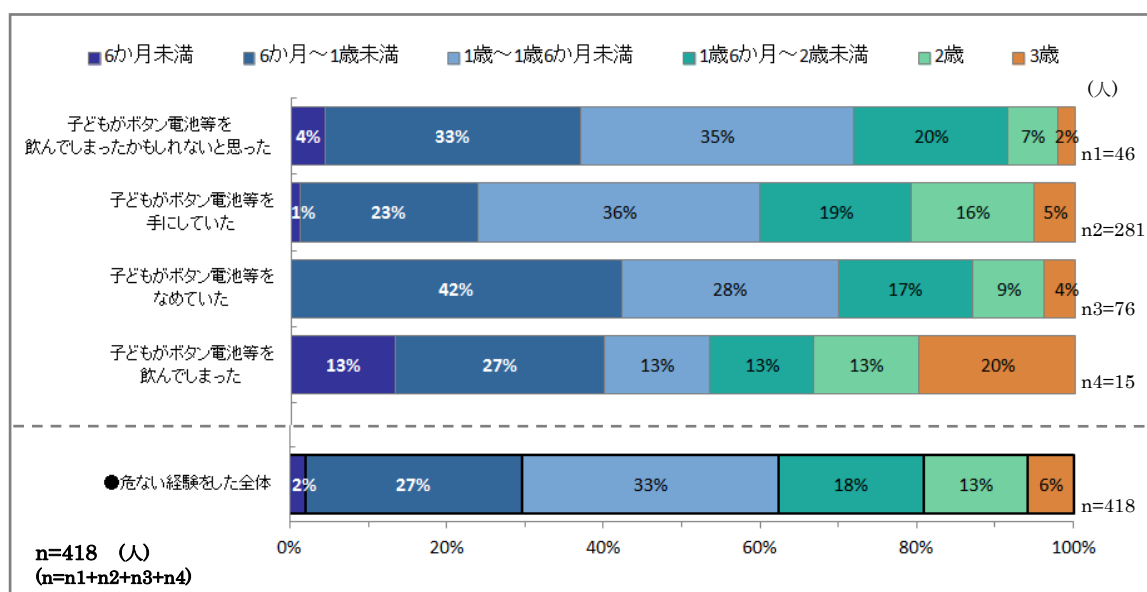


(3) ボタン電池で危ない経験のある人が1割以上！

子どもが「ボタン電池を飲んでしまった」、「なめていた」、「手にしていた」、「飲んでしまったかもしれない」のいずれかの経験があると答えた人は、418人と全体の1割以上ありました。

また、そのときの子どもの年齢は6か月～1歳6か月未満が229人と経験した人の6割以上を占めています。

図5 危ない経験をした時の子どもの年齢

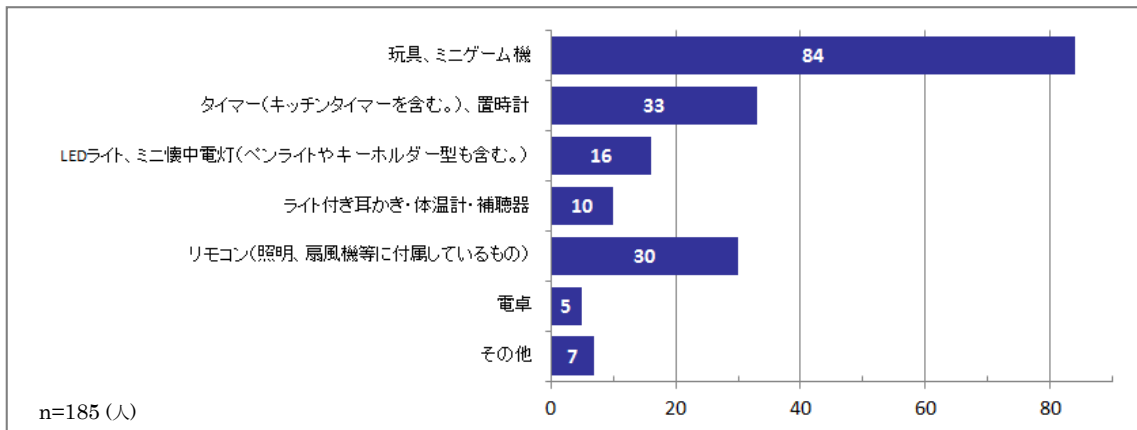


(4) ちょっとしたスキが危険です！

ボタン電池で危ない経験をした人のうち、子どもが触れていたボタン電池は、「製品の中に入っていたが、何らかの原因で出てしまった（製品に入っていた）ボタン電池」と答えた人は185人、「使用前又は使用済みで製品には入れていなかったボタン電池そのもの」と答えた人は192人とほぼ同数でした。

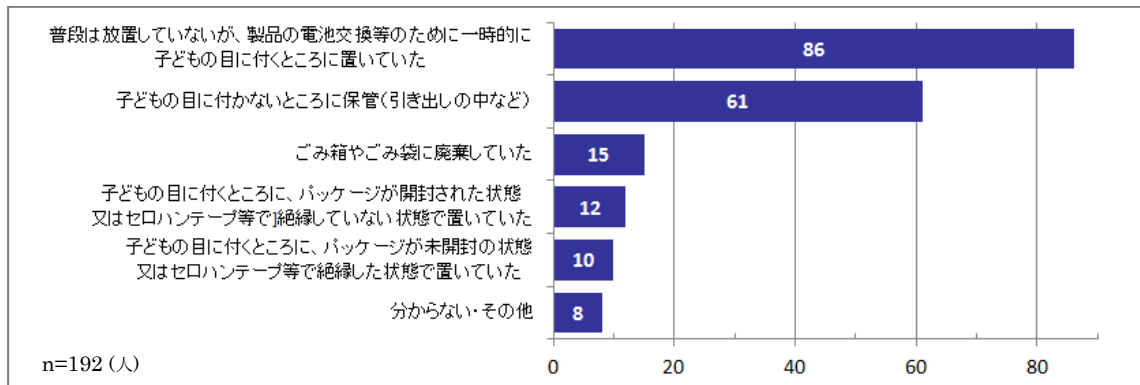
製品に入っていたボタン電池の場合、「玩具、ミニゲーム機」からが最も多く、「タイマー（キッチンタイマーを含む。）、置時計」、「リモコン（照明、扇風機等に付属しているもの）」、「LEDライト、ミニ懐中電灯（ペンライトやキーホルダー型も含む。）」という順で危ない経験が生じています。

図6 ボタン電池が入っていた製品（危ない経験をした人数）



ボタン電池そのものの場合、「普段は放置していないが、製品の電池交換等のために一時的に子どもの目に付くところに置いていた」が最も多く、「子どもの目につかないところに保管していた（引き出しの中など）」が次に多くなっています。電池交換のために一時的にボタン電池を出した、引き出しに片付けた等ちょっとした隙に危険が潜んでいるといえます。

図7 ボタン電池が置かれていた場所（危ない経験をした人数）



4. 専門家からのアドバイス

子どもがボタン電池を飲み込んでしまった、又は鼻の穴に入れてしまったときは、一刻も早く医療機関に行くことが重要です。最悪の場合、死に至るおそれもあるのですぐに救急車を呼びましょう。その際、電池の種類や状態を確認できれば、医師に伝えてください。

また、飲んだかどうかははっきりしない場合でも、レントゲンを撮ればボタン電池の有無や電池の停滞部位が確認できますので、誤飲の可能性がある場合には必ず受診しましょう。(緑園こどもクリニック 山中龍宏医師)

5. 消費者の皆様へ

- (1) どの製品にボタン電池が使用されているかチェックし、電池蓋が外れやすくなっていないか確認しましょう。

子どもの玩具^{※8} 以外でも、ボタン電池使用製品を子どもが手にしているという実態があります。子どもが遊んでいるうちに電池蓋が外れるおそれがあるので、家庭内のどの製品にボタン電池が使われているか確認しましょう。

また電池蓋が壊れていないか、簡単に電池が取り出せるような構造になっていないか、電池交換後にねじ止めが緩んでいないか等を確認しましょう。そのような危険性があれば、必ず子どもの手の届かない所に置き、必要があれば電池蓋をテープで止めるなどの処置をしましょう。

※8 一般社団法人日本玩具協会の玩具安全基準 (ST 基準) では、ボタン電池が収納されている部分の蓋は容易に開かない構造であることなどが定められています (ST 基準書第1部4.26項)。ST マークが表示されている玩具は、ST 基準に適合していることを示しています (http://www.toys.or.jp/jigyuu_st_top.html)。

- (2) 御家庭にある未使用又は使用済みのボタン電池は絶対に子どもの手の届かない場所に保管しましょう。

子どもの手の届かない場所に保管したつもりでも、成長に伴って手が届くようになってきます。引き出しや扉には、子どもが簡単に開けることができないような安全グッズを使用することも有用です。

子どもの兄姉がボタン電池を取り出し、子どもの目に触れる所に置いてしまうこともあります。兄姉に、下の子どもがボタン電池を飲み込んでしまう可能性があることを教えることも大事です。

また、廃棄するときも、家からごみとして出すまでは、必ず子どもの手の届かない所に保管しましょう。

- (3) 電池交換は、子どもの目に触れないところで行いましょう。

電池交換のために一時的にボタン電池を子どもの目に付くところに置いてしまい、保護者が目を離れた隙に子どもが手に取ってしまい誤飲したという

事故報告もあります。電池交換は、子どもが寝ている間など、子どもの目に触れない時間・場所で行いましょう。また、交換した電池をその場に置いたままにしないようにしましょう。

電池の保管時には、破裂^{※9}にも注意しましょう！

電池の端子は金属製で、ボタン電池はほぼ全面が金属です。電池同士が接触すると、場合によっては大きな電流が流れ、発熱、破裂、発火に至る場合もあります。

長期間使用しない製品やパッケージから取り出して保管するとき及び廃棄のために保管するときなど複数の電池を一緒にするときは、電池同士が接触してもショートしないようにテープを巻くなど、それぞれの電池の端子部分を絶縁するようにしてください。また、ボタン電池を、電気を通しやすい金属（ネックレスやヘアピン、コイン、鍵など）と一緒にするのもやめましょう。

下記の映像は、国民生活センターが行ったボタン電池が破裂した再現映像です。映像1は、絶縁していない使用済み及び新品のボタン電池を入れたところ、一部の電池が高温になり破裂した映像です。映像2は、映像1の袋の中で破裂する様子をわかりやすくするために、9V電池とボタン電池を接触させた様子です。

※9 事故情報データベースには、ボタン電池の破裂に関する危害情報は、平成21年度以降98件登録されています（平成26年3月31日までの登録分）。リコール品に関する事故情報のほか、ボタン電池を放置又は保管しているときの破裂に関するケースが目立ちます。

映像1 破裂の再現映像①

<http://www.caa.go.jp/safety/index17.html>



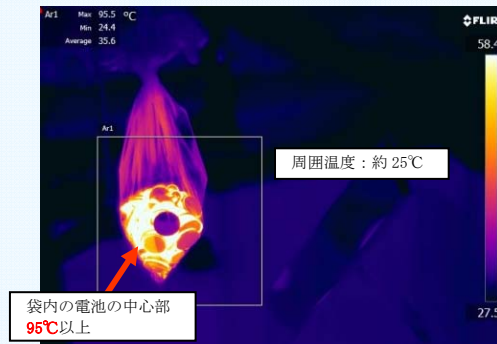
映像2 破裂の再現映像②

<http://www.caa.go.jp/safety/index17.html>



写真4 破裂直前の熱画像

※映像1の破裂直前のサーモグラフィ画像



本資料に関する問合せ先
消費者庁消費者安全課 河岡、中川、小原、上野
TEL : 03(3507)9137 (直通)
FAX : 03(3507)9290
URL : <http://www.caa.go.jp/>

【参考】「子どもを事故から守る！プロジェクト」について

消費者庁では、消費者の立場に立って子どもを不慮の事故から守るため、「子どもを事故から守るプロジェクト」を推進しております。

また、プロジェクトを子ども達により身近に感じてもらうために、シンボルキャラクター「アブナイカモ」とテーマソング「おしえてね アブナイカモ」による啓発活動を行っております。

「子どもを事故から守る！プロジェクト」テーマソング
「おしえてね アブナイカモ」

＜作詞・作曲・編曲＞Hiroshi Tsunaga

とがった角(かど)や ポットの湯気 危ないかも 階段やドア お風呂
いろんなものに 何気ないところに ヤケドやケガを起こす種が
「うちの子だけは大丈夫...」 そんなことはないです
いつも 念のため 気をつけてね
教えてね アブナイカモ 危険なものがありますか
そばにいて アブナイカモ 見てくれてありがとう
小さなおもちゃ **ボタン電池** 危ないかも 洗剤や酒 タバコ
家の中は 飲むとイケない ほらこんなに危険だらけでしょ
「そんなバカなことなんて 起きるはずはない...」
それは違います ねえ 気付いてよ
教えてね アブナイカモ 危険なものはないですか
そばにいて アブナイカモ 見てくれてありがとう
いかないで アブナイカモ ずっと一緒にいられるよね
そばにいて アブナイカモ 愛をくれてありがとう
今日もまた アブナイカモ 黄色いくちバシで教えてね
そばにいて アブナイカモ いつも いつもありがとう



「子どもを事故から守る！プロジェクト」
シンボルキャラクター

アブナイカモ

経済協力開発機構（OECD）の取組について

【名称】

International Awareness Week on Button Battery Safety
(ボタン電池の安全性に関する国際啓発週間)

【期間】

2014年6月16日（月）～20日（金）

【背景】

OECD は、誰もが直面する膨大な数の製品安全問題に対処するため、世界中の規制当局をまとめる上で主導的な役割を果たしています。

情報共有は、事態を改善する鍵となります。

ボタン電池（ますます多くの装置やおもちゃに使用されるようになっている小型の円形リチウム電池）を、子どもが誤飲した場合の重大事故や死亡事故についての情報共有はその適例といえます。

OECD 消費者政策委員会製品安全作業部会は、消費者や医療関係者の間で製品安全分野の課題について認識を高めるキャンペーンを始めました。OECD のような国際機関がどのように我々の日常生活に重要かつ積極的な影響を与えることができるか、お示しすることができることと思います。

【目的】

国際社会全体で、世界中、ほぼ全ての家庭にもあるもの—ボタン電池—によりもたらされる危険性への関心を高め、社会全体でその危険性を認識し、最も被害を受けやすい消費者である子どもの傷害や死亡のリスクを軽減するために、必要な予防的措置を確実に講じることができるようにすることを目的とします。

【参加国及び機関】

オーストラリア、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、欧州委員会、フランス、日本、韓国、ラトビア、メキシコ、ニュージーランド、米州機構、ペルー、ポルトガル、アメリカ合衆国、OECD

【OECD 局長からのコメント】

世界中の消費者は、子どもがボタン電池を誤飲すると、重傷を負うおそれがあることを意識しなければなりません。

今回の OECD が主催する国際キャンペーンは、そのような意識を高め、加盟国と OECD が結集して行っている取組を後押しするものです。

OECD ボタン電池の安全性に関する国際啓発週間

グローバル傷害・死亡データ

国	データ
オーストラリア	オーストラリアでは、毎週およそ5人の子どもがボタン電池関連の傷害で救急診療部を訪れる。 1件の死亡事例も報告されている。
オーストリア	2005年から2011年の間、オーストリアの病院から、ボタン電池の誤飲による14件の入院事例が報告されている。
ブラジル	4件に及ぶボタン電池誤飲事故のマスコミ報道があった。
カナダ	カナダ病院傷害報告・防止プログラム(CHIRPP)によると、参画病院(小児科病院11箇所、一般病院6箇所)において、1年につき、ボタン電池関連で合計平均65名が救急診療部に訪れる。 これらの事故のうち、70%は誤飲事故、16%は耳や鼻に関連した事故だった。患者の約70%は、1歳から4歳であった。
クロアチア	ボタン電池誤飲による入院 <ul style="list-style-type: none"> • 2013年5件 男子2名(2歳), 女子3名(1歳, 2歳, 7歳) • 2012年6件 男子3名(3歳), 女子3名(1.5歳-3歳) • 2011年14件 男子5名(1歳-3歳(主に3歳男子) 自閉症の成人男性1名(25歳); 女子8名(1.5-4歳(平均2歳))
フランス	フランスの10病院の調査において、2005年から2012年の間、ボタン電池に関連する事故は248件あった。実際には600病院あることを考慮して、外挿法によって推計すると、毎年フランスの病院に1,240件ボタン電池に関わる事故が報告されていることになる。 これらの推定によると、フランスの人口規模を考慮した場合、フランスの大都市圏における事故率は15/100,000近くということになる。(なお、米国のNEISS全米電子傷害サーベイランスシステムでは推定10~20/100,000となっている。) 事故が最も起こりやすいのは、子どもが1歳から4歳の間である。 報告された事例の60%で、事故は子どもが遊んでいる時に起きていた。 23%の事例で、子どもたちは入院を余儀なくされた。(なお、子ども関連の国内のすべての事故の平均は6%である。)
韓国	最近4年間で、合計254件のボタン電池誤飲事例が、救急診療部から情報を収集しているCISS(消費者傷害監視システム)へ報告された。 254事例のうち、164事例は12カ月未満の子どもに関するものであった。
ラトビア	2014年4月に、大学病院(the Children's Clinical University Hospital of Latvia)から、ボタン電池を飲み込んだ後、1歳の子どもが死亡したとの報告があった。
ニュージーランド	国立中毒センター(The National Poisons Centre)は2011年から2013年の間に、175件のボタン電池に関連する電話を受けた。
イギリス	ボタン電池の誤飲により、2013年12月、13ヶ月の男子が死亡したとの報告があった。また、今年4月に1件の重症事例が報告された。
アメリカ合衆国	1990年から2009年の間に発生した電池誤飲の関連で、およそ50,000人が救急診療を訪れた。報告された事故のほとんどは、直径20mmかそれより大きい、3ボルトの電池に関係するものであった。 具体的には、ボタン電池による傷害が毎年3500件、アメリカ合衆国の中毒センター(the centres of poisoning control)に届出されている。 重症事例や死亡事例の数は増加している。 The US National Poison Capital Centreはボタン電池の誤飲により35件に及ぶ死亡報告を受けている。

別添

乳幼児のボタン電池等の誤飲事故についてのアンケート調査

平成 26 年 3 月
消 費 者 庁

1. 調査内容

(1) 調査目的

乳幼児の保護者を対象に、ボタン電池等を使用する製品に関する認識及び乳幼児のボタン電池等の誤飲事故に関する認識についてアンケート調査を行い、事故の未然防止のための消費者への注意喚起に活用する。

(2) 調査時期

平成 26 年 3 月

(3) 調査対象、回答者属性及び調査方法

現在 0 歳から 3 歳までの乳幼児と同居しており、家庭内でその子どもの世話をしている 20 歳代から 40 歳代の母親を対象に、インターネットによるアンケート調査を実施。

(4) 有効回答数

20 歳代 1,096 人、30 歳代 1,613 人、40 歳代 539 人の計 3,248 人から回答を得た。

2. 調査結果

Q1 あなたの年齢をお答えください。（回答は1つ）

n=	20～29歳	30～39歳	40～49歳
3,248	1,096	1,613	539
100.0%	33.7%	49.7%	16.6%

Q2 同居されている子どもについて、当てはまるものを全て選んでください。
※2014年3月1日現在でお答えください。（複数回答）

n=3248	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳	3歳	4歳以上
対象年齢の子どもをお持ちの割合	403	513	498	433	1,030	946	822
	12.4%	15.8%	15.3%	13.3%	31.7%	29.1%	25.3%

以下では、ボタン電池・コイン型リチウム電池（以下、「ボタン電池等」といいます。）を用いた製品についてお聞きします。

Q3 ボタン電池等が入っている可能性のある以下の製品のうち、御自宅で保有しているものを全て選んでください。ただし、御家庭で保有しているその製品にはボタン電池等が用いられていない（乾電池等が用いられている）ことが分かっている場合は、選択しないでください。（複数回答）

n=3248	タイマー（キッチンタイマーを含む。）、置時計	LEDライト、ミニ懐中電灯（ペンライトやキーホルダー型も含む。）、	ライト付き耳かき・体温計	リモコン（照明、扇風機等に付属しているもの）	電卓	補聴器	玩具、ミニゲーム機	その他具体的に	何も保有していない
保有率	1,489 45.8%	653 20.1%	1,374 42.3%	773 23.8%	1,042 32.1%	26 0.8%	1,872 57.6%	197 6.1%	395 12.2%

Q3-1 Q3で選択した製品について、子どもがおもちゃ代わりに手にしているのを見たことがありますか。当てはまるものを選んでください。 ※複数に該当する場合は、選択肢番号の若い方をお答えください。

n=		積極的に子どもに与えたことがある	子どもが勝手に製品を手にしているところを見たことがある	子どもが手にしているところは見ることがない	子どもには絶対に手に取らせないようにしている
タイマー(キッチンタイマーを含む。)、置時計	1,489 100.0%	123 8.3%	536 36.0%	324 21.8%	506 34.0%
LEDライト、ミニ懐中電灯(ペンライトやキーホルダー型も含む。)	653 100.0%	60 9.2%	293 44.9%	138 21.1%	162 24.8%
ライト付き耳かき・体温計	1,374 100.0%	51 3.7%	670 48.8%	231 16.8%	422 30.7%
リモコン(照明、扇風機等に付属しているもの)	773 100.0%	66 8.5%	465 60.2%	111 14.4%	131 16.9%
電卓	1,042 100.0%	154 14.8%	514 49.3%	190 18.2%	184 17.7%
補聴器	26 100.0%	3 11.5%	9 34.6%	1 3.8%	13 50.0%
その他	197 100.0%	19 9.6%	53 26.9%	52 26.4%	73 37.1%

Q 4 乳幼児が製品からボタン電池等を取り出し、飲んでしまう事故が起きていることを知っていますか。

n =	はい	いいえ
3,248	2,569	679
100.0%	79.1%	20.9%

Q 5 Q 4で、乳幼児が製品からボタン電池等を取り出し、飲んでしまう事故が起きていることを「知っている」とお答えの方にお尋ねします。

ボタン電池等を誤って飲んでしまった場合、食道にとどまったまま電流が流れ、潰瘍が生じるといった重症事例があることを知っていますか。

n =	重症事例があることを知っている	危険なことは知っていたが、重症化する可能性は知らなかった	ボタン電池等の危険性を全く知らなかった
2,569	1,227	1,229	113
100.0%	47.8%	47.8%	4.4%

Q 6 ボタン電池等に関して、0～3歳までの子どもにとって危険な体験、ヒヤリとした経験について、当てはまるものを選んでください。

※ 当てはまるものが複数ある場合は、御自身にとって最も危険だと思った体験、ヒヤリとした経験1つについて教えてください。

n =	子どもがボタン電池等を飲んでしまった	子どもがボタン電池等をなめていた	子どもがボタン電池等を手にしていた	子どもがボタン電池等を飲んでしまったかもしれないと思った	その他の危険な体験、ヒヤリとした経験をした 具体的に	危険な体験、ヒヤリとした経験はない
3,248	15	76	281	46	83	2,747
100.0%	0.5%	2.3%	8.7%	1.4%	2.6%	84.6%

Q 6-1 Q 6で、危険な体験、ヒヤリとした経験があるとお答えになった方にお尋ねします。その時の子どもの年齢を選んでください。

※ 当てはまるものが複数ある場合は、御自身にとって最も危険だと思った体験、ヒヤリとした経験1つについて教えてください。

n =	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳	3歳
501	9	144	162	91	70	25
100.0%	1.8%	28.7%	32.3%	18.2%	14.0%	5.0%

Q 6-2 Q 6で、危険な体験、ヒヤリとした経験があるとお答えになった方にお尋ねします。危険な体験、ヒヤリとした経験をした際のボタン電池等について当てはまるものを選んでください。

※ 当てはまるものが複数ある場合は、御自身にとって最も危険だと思った体験、ヒヤリとした経験1つについて教えてください。

n =	未使用のボタン電池等	使用済のボタン電池等	製品に入っていたボタン電池等(子ども本人が取り出したもの)	製品に入っていたボタン電池等(子ども以外が取り出したもの)	分からない	その他 具体的に：
501	56	144	154	46	72	29
100.0%	11.2%	28.7%	30.7%	9.2%	14.4%	5.8%

Q6-2-1 Q6-2で、「未使用のボタン電池等」、「使用済のボタン電池等」を選択された方にお尋ねします。そのボタン電池はどこにあったのですか。

※ 当てはまるものが複数ある場合は、御自身にとって最も危険だと思った体験、ヒヤリとした経験1つについて教えてください。

n =	子どもの目に付かないところに保管していた（引き出しの中など）	子どもの目に付くところに、パッケージが未開封の状態又はセロハンテープ等で絶縁した状態で置いていた	子どもの目に付くところに、パッケージが開封された状態又はセロハンテープ等で絶縁していない状態で置いていた	普段は放置していないが、製品の電池交換等のために一時的に子どもの目に付くところに置いていた	ごみ箱やごみ袋に廃棄していた	分からない	その他 具体的に：
200	62	12	12	90	15	8	1
100.0%	31.0%	6.0%	6.0%	45.0%	7.5%	4.0%	0.5%

Q6-2-2 Q6-2で「製品に入っていたボタン電池等」を選択された方にお尋ねします。ボタン電池等が入っていた製品を選んでください。

※ 当てはまるものが複数ある場合は、御自身にとって最も危険だと思った体験、ヒヤリとした経験1つについて教えてください。

n =	タイマー（キッチンタイマーを含む。）、置時計	LEDライト、ミニ懐中電灯（ペンライトやキーホルダー型も含む。）、	ライト付き耳かき・体温計	リモコン（照明、扇風機等に付属しているもの）	電卓	補聴器	玩具、ミニゲーム機	その他 具体的に：
200	37	18	9	31	5	1	89	10
100.0%	18.5%	9.0%	4.5%	15.5%	2.5%	0.5%	44.5%	5.0%

Q7 ボタン電池等について、子どもにとって危険だと思った体験、ヒヤリとした経験があれば、その時の状況を教えてください。（自由記述）